

活動と活動を結ぶ新しい通信 — 発刊によせて —

福井市中央公民館運営審議会 委員長

福井市社会教育委員の会議 副委員長 柳澤 昌一



一人一人がそれぞれの持ち場で役割を果たしているからこそ、わたしたちの地域社会は成り立っています。しかし、任が重くなるほど、自分の仕事のことで精一杯になってきます。自分たちだけ忙しく取り組んでいるように感じる。多くの人に理解されていないと感じる。活動が個々に取り組みられていてもそれぞれが孤立し、地域を支える協働の力につながらない。「絆」という言葉がこの国の多くの地域で、切実な課題として語られる理由の一つがそこにあると思います。

歩いて集える身近な地域に、個々の枠を超えて活動と活動を結ぶことに心をくばり、その環を持続的に育もうとする人たちがいる。その結び培う営みの拠点が目に見える形である。そうした働きと拠点のある地域と、個別の活動しかない地域。私たち福井市の先人は前者を選び、つながりを育む拠点として小学校区に公民館を築いてきました。49の公民館が、地域の多様な活動を結び、学び合うコミュニティを培う仕事を大切に重ねています。

そうした49の個性ある地域と公民館の活動を結び、そこにある智慧を共有する。中央公民館を結び手とする通信が生まれます。それは結び合う力をさらに大きく市全体のものとし、より広く、また長く共有するための新しい挑戦です。この通信の発刊と発展に期待します。

福井市の公民館（つどう・まなぶ・むすぶ） — 発刊によせて —

生涯学習室 室長 倉 美幸



「福井市の公民館」創刊にあたり、ご挨拶を申し上げます。

本市の公民館は、昭和21年12月1日に、福井市の公会堂の玄関に公民館の看板を掲げ、議事堂で学級・講座を実施することからはじまりました。

以来、市内に49ある地区公民館では、実生活に即した困りごとや地域全体に及ぶ課題などについて、住民たちが集い、話し合い、そして学習を積み重ねることを通して、共通した目的に向かいつながっていく環境を育んできました。その結果、地域の特色を活かした活動が進展し、地域を担う人材の育成や地域の発展に大きく寄与しています。

また、歩いて気軽に通える場所に公民館があり、言わば地域にとってお茶の間のような存在として親しまれていることも、地域に密着した活動ができる要因ではないかと感じています。

このたび、中央公民館では、地区公民館の特色ある活動事例を収集し、情報発信する事業を始めました。地域とともに歩んできた本市公民館の取組は県内外から大変注目されていますが、各館の情報をとりまとめ、広報誌として発刊し、様々な活動事例を共有することは、本市にとって大きな力となり、更なる公民館事業の推進につながるものと期待しています。